

Part 1 基本情報

1. セントルシアプロフィール

- | | |
|------------|---|
| (1) 正式名称 | (和文) セントルシア
(英文) Saint Lucia |
| (2) 政体 | 立憲君主制 |
| (3) 首都 | カストリーズ |
| (4) 面積 | 616平方km |
| (5) 人口 | 17万204人(2008年) |
| (6) 民族 | アフリカ系66%、ムラート(混血)30%、インド系4% |
| (7) 言語 | 公用語 : 英語 |
| (8) 宗教 | カトリック、英国国教 |
| (9) 略史 | 1502年コロンブスが到達。1650年フランス人が入植。英仏の抗争が続くが、1814年イギリス領となる。1958～62年英領西インド連邦に加盟。1967年イギリスの自治領となる。
1979年独立。 |
| (10) 在留日本人 | 20人(2011年9月) |
| (11) 気候 | 年間を通じて吹く北東の貿易風により、熱帯性の暑熱が和らぎ、概してしのぎやすい気候である。年平均気温は摂氏28度で、ほとんど季節変化がない。 |

【参考】

「外務省ホームページ-各国・地域情勢-」外務省
「最新世界各国要覧 10訂版2000」東京書籍

2. 業務のための基礎データ

(1) JICA事務所の概要(セントルシア支所)

住所 : 23 Brazil St., 2nd Floor of Kaycees Building, Castries, St. Lucia (W.I)

連絡先 : 国番号 : 1-758

電話 : +1-758-453-6032 ~ 3

FAX : +1-758-453-6036

URL : <http://www.jica.go.jp/stlucia/index.html>E-mail : sc_oso_rep@jica.go.jp

執務時間 : 9:00 ~ 16:30(昼休み12:30 ~ 13:30)

休日 : (3)の「官公庁の休日」に準じる。

事務所までの交通 :

【空港から】

国際空港は、カストリーズとビューフォートの2カ所にある。

<カストリーズ(Vigie Airport) >

一般的にタクシーで市内まで10米ドルで十分であるが、タクシーにメーターがない

セントルシア 1

ため、乗車する前に料金の確認を行ったほうがよい。その際、米ドルでの支払いが現地通貨東カリブドル(ECドル)での支払いかも確認すること(1米ドル=ECドル2.67、固定レート)。特に、市外のホテルに向かう場合は、ホテル名を紙に書いて運転手に手渡し、料金の確認を行うこと。事務所の場所を指示するには、Brazil St., Kaycees Building (Derek Wolcott Square前)と告げればよい。カストリーズ市内 - Rodney Bayエリアまでは50ECドル。

<ビューフォート(Hewanorra International Airport)>

カストリーズまでは、約1時間強。料金はタクシーで約80米ドル。

[空港以外から]

街の規模が小さいので、徒歩かタクシーを利用するのが一般的。ミニバスと呼ばれる相乗りの小型バスもあるが、停車する頻度が高く、時間がかかる。また、運転手は現地語であるパトワ語を話すことが多く、コミュニケーションがうまくいかないことがある。そのため、現地に慣れるまでは利用しないほうが無難である。レンタカーはAVIS, Budgetなど数社あるが、狭く曲りくねった道が多く粗暴運転の車による事故も多いため、レンタカーを自ら運転することは勧められない。無線タクシーはない。

(2) JICA支所周辺地図



- (3) 日本との時差、
サマータイム
- 日本との時差 :-13時間
サマータイム :実施していない。
- (4) 祝日、官公庁
の休日
- | | |
|--------|---|
| 1月 1日 | New Year's Holiday |
| 1月 2日 | New Year's Holiday (Substitution Holiday) |
| 2月22日 | Independence Day |
| 4月22日 | Good Friday |
| 4月25日 | Easter Monday |
| 5月 1日 | Labour Day |
| 5月13日 | Whit Monday |
| 6月23日 | Corpus Christi |
| 8月 1日 | Emancipation Day |
| 10月 3日 | Thanksgiving Day |
| 12月13日 | National Day |
| 12月25日 | Christmas Day |
| 12月26日 | Christmas Holiday |
- (2011年)
- 官公庁の休日 :上記祝日と土曜日、日曜日。
- (5) ビジネスアワー
- 官庁 :8:30 ~ 16:30 (昼休み12:30 ~ 13:30、土日休み)
銀行 :8:00 ~ 14:00 (金曜日は17:00終業、土日休み)
商店 :8:00 ~ 16:30 (土曜日は13:00終業、日曜日はほとんどの店が休業)
- (6) 言語
- 業務 :英語が十分通用する。
ホテル、買い物、食事 :英語が通用する。市場、一般商店などではパトワ語が使われることもある。
- (7) 通貨
- 通貨 :東カリブドル(ECドル) (1ECドル = 100セント)
- (8) 通貨レート
- 為替レート :1米ドル = 2.67 ECドル(固定レート)
- (9) 関係機関
- 【在外日本関係機関】
- 在トリニダード・トバゴ日本大使館(セントルシア国内に日本大使館はなく、在トリニダード・トバゴ日本大使館が兼轄)
- 住所 :5 Hayes, Street, St.Clair, Port of Spain, Trinidad and Tobago, W.I.
電話 :+1-868-628-5991

【セントルシアの関係官公庁】

●外務省

住所 : Baywalk Mall, Gros Islet

電話 : 468-4501/2 468-4519 FAX : 452-7427

E-mail : foreign@candw.lc

●経済問題・経済企画・国家開発省

住所 : American Drywall Building, Vide Bouteille, Castries

(ジョンコンプトンハイウェイ沿い)

電話 : 468-6820/3814 FAX : 451-9706

E-mail : econdept@candw.lc, projects@candw.lc

(10) 有用サイト

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/index.html> (外務省「各国・地域情勢」)

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/index.html> (外務省「渡航関連情報」)

<http://www.stlucia.gov.lc/> (セントルシア政府公式サイト)

Part 2 生活情報

「生活情報」は特に記載のない限り、JICA事務所のあるカストリーズの情報を中心に掲載しています。

1. ホテル、住宅



1-1 ホテル

セントルシアは観光が主要産業であり、国内各所にリゾートホテルがある。カストリーズ近郊には大小20以上のホテルがあり、高級ホテルもいくつかある。10月～4月のハイシーズン中は高級ホテルほど予約が必要。シーズンにより料金が大きく変動し同じホテルでも倍近く料金が異なることがある。料金には税金が18%加算されるので、チェックインの時に確認しておくこと。ホテルの予約は、直接電話やFAXで申し込み、インターネット申し込みの可能なホテルもあるが、ハイシーズンはオーバーブッキングなどのトラブルの可能性もあるので予約記録を携行すること。また、普段セントルシアと取引実績のない海外の旅行代理店を通じて料金前払いで予約した場合、チェックイン時に料金の入金の確認できないとされることもあるので、旅行代理店によく確認するとともにバウチャー(宿泊券)だけでなく領収書などの記録を携行することが望ましい。予約をキャンセルする場合はキャンセル料が必要となる場合があるので、代理店を通す場合は料金を確認しておく。

宿泊料金の支払い方法は、カードか現金かチェックインの時に必ず確認される。現金の場合は、一定額の前払いを要求されることが多い。

セントルシアで使えるクレジットカードは、VISA、American Express、MasterCardなど。JCBは通用しない場合が多い。主なホテルは次のとおり(詳細はイエローページを参照)。

<ロドニーベイ地区>



- ・Bay Gardens Hotel
- ・Bay Gardens Inn
- ・Coco Palm

<カストリーズ地区>

- ・Villa Apartment (長期滞在用)
- ・Bel Jou Hotel
- ・Auberge Seraphin

<ビューフォート地区>

- ・Kimatrai Hotel
- ・Fort Ville Inn



Bay Gardens Hotel

1-2 住宅事情

ハイシーズンの11～4月は長期滞在型の観光客が増加し、その多くがアパートや一戸建て住宅を契約するので空き物件が少なくなる。この時期を除けばまた空き物件が増えるので、好みの家は仮住まいをして待つのもひとつの方法である。

政府の住宅関連融資などにより、住宅難は解消されつつある。貸家のニーズがある程度満たされたことで以前のような競争的値上げは和らぎ、家賃は横ばい傾向が続いている。しかし、郊外の新築住宅は高級志向が強く、状態の良い戸建住宅の家賃は1か月4000～8000ECドルと高くなっている。また、カストリーズ市内および周辺には新たな住宅開発の余地が殆どなく家賃の割に古い物件が多いことから、北部のロドニーベイ方面の新興住宅地に住む者が多くなり、市内の中古貸家が人気薄となっている。ロドニーベイ界隈は比較的治安がよく、スーパーやレストランなども充実しており便利で、環境もよいが、カストリーズまでの道路は朝夕の渋滞が激しくなる一方で通勤・通学には不便である。

住宅の種類はアパートおよび一戸建てで、西欧風の庭付き2LDKが主流となっている。一戸建住宅の場合、1階と2階を分けて賃貸するパターンも多い。1階と2階は完全に独立しており、掃除も大家がしてくれる場合もある。観光客および長期滞在者への賃貸のため、家具、冷蔵庫、食器、寝具などほとんどすべて準備されており、食料さえ持ち込めばその日から生活できる家も多い。契約時には保証金として1～2か月分の家賃の前払いを求められることが多い。不動産業者の仲介の場合、仲介手数料は貸主が支払うのが一般的である。

1-3 住宅の探し方

口コミ、新聞広告、不動産会社による方法がある。シーズン中は空き物件が少なく、好みの物件を探すのは骨が折れるが、焦らずに仮住まいをしてよい物件が出るまで待つのもよい。主な不動産会社はとおりである。



- ・ Bel View Estate
- ・ Mrs St Rose Welcome
- ・ Julian R. Hunte Real Estate Ltd.

1-4 住宅選定上の留意点

家賃・建物・環境など、すべての条件を満たす家は少ない。したがって、通勤・通学の便、買物の便、建物の安全性、給水、下水設備、メンテナンスが行き届いているか、また日射、通風環境など全体的に考慮する必要がある。

安全性については、周囲から孤立している建物や、寂しい地域は避けること。玄関や勝手口など外に通じるドアが丈夫にできているか、内錠が二重、三重構造になっているかなどは、重要なチェックポイントである。また、各窓が防犯構造になっているかもチェックすること。近所とのコミュニケーションを保ち、非常ベルの設置なども考慮するとよい。エレベーターのついた建物は少ないが、地震や火災時の避難についても考慮しなければならない。

水道については、水道設備、自前の給水タンクがあるか、下水に問題はないかなど1つ1つ確かめる必要がある。近年、雨不足による渇水やハリケーンに伴うインフラ打撃による長期断水が発生しているため、給水タンクを設置している住宅を選ぶ

ことが望ましい。また、高台に位置する家屋は水道の圧力が弱く、特に朝夕の消費の多い時間帯などは断水する場合もあるので注意すること。

一般電話回線は空きが少なくなっている。電話がなければ大家に交渉するか、自ら申し込む必要がある。また、高級住宅にはケーブルTVも普及しているが、新規契約は申し込んでから2～3週間程度かかる。インターネットも同様。

家賃は、所在地、住宅の大きさ、築年数、家具の有無で決まるが、築3年以内を対象とすると標準家具付きの場合、月額3500～6000ECドル程度であるが、交渉によって多少の値下げの可能性はある。備え付けの家具についても、高級住宅では調度品、テーブル、いす、応接セット、ベッドに至るまで相当高価な品が備え付けられており、外観のみで査定できないこともある。

そのほか、害虫や蚊対策(網戸)、天井扇、冷房の有無なども考慮すること。

1-5 住宅の契約

契約には、不動産会社を通すものと、家主と直接契約するものがあるが、いずれも文書で行われる。契約期間は、特別な事情がない限り、申し込み者側の希望が受け入れられる。更新時の値上げはその時の市況によるが更新手数料などの慣習はない。契約成立時には家賃1～2カ月分の保証金を支払い、退去時に家財等の損傷、公共料金の精算などを確認したうえで返金されるのが一般的である。退去時のトラブルを防ぐため、家具・備品類は必ずリストを作成してもらい、大家立会いで個数だけでなく損傷の有無などを確認しておくこと。家賃は月毎の前払いが一般的であり、口座に振り込みか、現金支払いかのいずれかである。

家具類や電気などの修理が必要な場合、借り手と家主のどちらが負担するかなどを決めておく必要がある。また、途中で契約を解除する場合の事前通知、解約料の有無なども文書で確認しておくこと。

そのほか、前の住人の分まで負担しないためにも、電気、水道、ガスなどは入居時のメーターチェックを忘れないこと。

1-6 ガス、水道などの手続きと管理

個人で電話の申請をすると取り付けまで時間がかかるので、家主を通じて申し込むことを勧める。

公共料金は、契約者に直接請求書が送られてくるのが普通である。請求書には必ず支払い期限が明記されている。郵便事情で遅れて届く場合もあるので、支払い期限に遅れないよう注意が必要である。支払いは窓口にて現金か小切手で行う。大型スーパーには公共料金支払カウンターがあり、休日や夜間でも支払が可能となっている。電話や電気の場合、支払期限を過ぎると自動的に供給を止められるので請求書の配達が遅れている場合は大家に相談するか契約番号を示して料金窓口で確認するなどの注意が必要。そのトラブルを避けるため、翌月用に請求額よりも余分に支払っておく(デポジット)ことも可能である。

1-7 家電

(1) 電圧

電源は220V、50Hzで単相。日本から100Vの電気製品を持参した場合は変圧器が必要である。しかし、主な電気製品や変圧器は現地調達が可能である。

(2) コンセント、モジュージャックの形

差し込みは住宅によって丸ピン型または平型と違うことも多いが、一般的には「BF型」と言われる平型3ピンのものである。家電製品は製造国によってまちまちであるが、これらの器具・部品やアダプターは簡単に入手できる。



コンセント

(3) 家電製品

・日本から持参したほうがよいもの：日本語仕様のもは入手できないことから、パソコン、プリンター（一部は日本製品有）など。

・現地調達可能なもの：ほとんどの家電。



モジュラー

1-8 家具保険

企業・事務所などでは加入しているケースもあるようだが、まだ少ない。家庭用の家財保険などは一般的にはなく、火災保険に含まれることが多い。契約時に火災保険の加入状況なども確認しておくが良い。

1-9 その他

特になし。

2. 衣料、理容



2-1 衣料全般

(1) 一般事情

セントルシアは熱帯性気候で、大西洋岸から吹きつける北東貿易風で暑熱は和らげられるものの、乾季、雨季を問わず気温は摂氏24～30度である。特にハリケーンシーズンにあたる6～11月は蒸し暑くなる。日常生活では夏物用の衣類を多く必要とし、寝具も十分な対策が必要となる。

衣料品店は多くあるが既製品は日本人にはサイズの大きいものが多い。インド系の商店では布地を多く用意し、生地やデザインにより異なるが、ワンピース1枚2000～3000円ぐらいで、オーダーメイドも可能である。既製品は混紡製品が多く、縫製があまり良くない。ここ1年で北部の観光客エリアに大型ショッピングモールができ、欧米ブランドも店舗を構えている。

(2) 日本から持参したほうがよい衣料

< 男性用 >

サイズの面からシャツ類、下着、靴下など。

< 女性用 >

サイズの面からブラジャー、ストッキング、下着類など。

< 子供用 >

子供用衣類は中国製品が主流で品数も少ないので、靴類とあわせて持参するとよい。そのほか、パジャマなどはあまり売られていないので、必要な人は大人用、子供用とも用意したほうがよい。

(3) 現地で調達したほうがよい衣料

Tシャツや夏物のショートパンツなどは品数も多く、安価である。また、欧米のファッションが直接入ってくる。

靴屋は専門店のほか、一般の商店でもコーナーを設けるほど数が多い。スポーツシューズなどもメーカー品が揃っているが、メーカー品の価格は、日本より2~3割ほど高めである。またモデルは若干古めで、サイズがないことも多い。

(4) その他の留意点

衣料品は、普段着のほか、スーツ類、水着などもほとんど入手可能である。

2-2 礼装

(1) パーティー

ホテルを会場にするもの、ホームパーティーに類するものといいろいろあるが、その場に適した服装を考慮する。一般にホームパーティーに呼ばれた場合、形式にこだわることはなくカジュアルな服装でよい。ホテルなどを会場にする場合は、招待状があればそのドレスコードに従う。男性は背広にネクタイ、女性はドレス(アフタヌーンドレス程度)が一般的である。女性は礼装の準備があった方が望ましい。

(2) 式典

男性は背広にネクタイ、女性はワンピースでよい。特に和服などにこだわることはないが、着れば喜ばれる。着物は暑いので、浴衣でも可。

(3) 冠婚葬祭

日本に準じればよいが、一般に結婚式、披露宴はむしろ日本より派手で、招待された側が服装を控えめにするようなことはない。葬儀は黒系統か地味なものが好ましい。黒ネクタイは1本用意しておくほうが無難である。

(4) その他の留意点

特になし。

2-3 洗濯、仕立て、修繕、保管

(1) 洗濯

クリーニング店はほとんどなく、カストリーズとロドニーベイの中間あたりに位置す

るショッピングモール内に1件ある。全体的に仕上げは良いが、特殊洗剤をアメリカから輸入している関係で、洗剤が切れている時は、仕上げまで2週間以上かかることもある。自分で洗えるものはできるだけ自分で済ませるほうが無難である。

電気店ではアイロンおよびアイロン台を数多く揃えている。価格はスチームや温度調節のついたもので200ECドルとやや高いが、種類は選べる。

電気洗濯機は上級賃貸住宅の場合は備え付けられている家が多い。備え付けられていない場合でも、家主に交渉すればつけてもらえる場合が多い。

(2) 仕立て、修繕

仕立ての注文はブティックや生地を売っている店で受け付けている。店によっては欧米人がアドバイザーとして働いている。男性用、女性用を問わず、よい店を口コミで知ることである。注文から仕上げまで、平均してワンピースで7～10日かかる。縫い直しや修繕は、個人経営店で受け付けている。時間的にゆとりをもって注文すること。

(3) 保管

雨季といっても日本のようにじめじめした天気は何日も続くことはないが、湿気が多(70%を下回ることは稀)いことからカビは発生する。ときどき陰干したり、「ナフタリン」など防虫剤を切らさないこと。

2-4 美容院、理髪店

美容院やサロンはカストリーズに多いが、最近はロドニーベイにも増えて来ている。主なものは、次のとおりである。



・Mag's Unisex Hair Care Shoppecasa

・Mood & Style Hair Dressing Salon

平均的な料金は、Relax & Setが45～165ECドル、Curlsが90～120ECドル、Steam & Setが25～30ECドル、Wash & Setが18～25ECドル、Weavingが15～25ECドル、Permsが75～90ECドル、Cut & Washが25～30ECドル、Hair Coloringが40～45ECドルである。

なお、上記で紹介した美容院やサロンはほとんど現地女性を対象にしており、また技術面においてもアフリカ系特有のカーリーヘア専門がほとんどである。したがって外国人はホテル内の美容サロンの利用が多い。これらは予約制に近いので、あらかじめ電話で申し込むとよい。料金はSetで80～120ECドル、Permsで200～250ECドルが相場である。土・日曜日および祭日は休日となる。

理髪店も美容院同様、外国人はホテル内のものを利用している。普通の調髪で50～60ECドル程度である。

3. チップ



3-1 チップ事情

- (1) 習慣の有無
チップの習慣はない。
- (2) 各種サービスに対するチップ
該当情報なし。

4. 食生活



4-1 外食

(1) 一般事情

市内には大衆食堂があるが、これらは主に現地の勤め人を対象としたランチ専門店、ミールと呼ばれる現地食や現地風に味付けされた中華が多い。最近ではカストリーズやロドニーベイなどでSub Way、Burger King、Domino's Pizzaなどのファーストフード店やRitualsというスターバックスを模したカフェも出来ている。また、近年急速に開発が進んでいるロドニーベイにはステーキ・シーフード・中華・インド・タイ・メキシコなどのレストランが営業している。飲食の課税は15%である。なお、冷수에少しでも臭いのある時は、生水を使用している可能性があるため飲まないこと。

(2) 飲食店

主なレストランは以下のとおりである(詳細はイエローページを参照)。

【ロドニーベイ地区】



< 中国料理 >

- ・Memories of Hong Kong (香港)
- ・Jude Terrace

< ピザ >

- ・Key Largo
- ・Domino Pizza
- ・Pizza Pizza

< 肉料理 >

- ・Big Chef Stake House
- ・Charthouse
- ・Fire Grill & Lounge

< インド料理 >

- ・Razmataz Restaurant
- ・Spice of India

< 海産物料理 >

- ・Spinnakers

< タイ料理 >

- ・Ku De Ta



Razmataz Restaurant

4-2 食料

(1) 一般事情

島のほぼ全域で主にバナナのプランテーション栽培が行われており、穀物や野菜などの栽培は少ない。畜産は南部ビューフォート方面で小規模に行われてはいるが、農業同様、輸入に依存している。魚介類も国内産は値段が高く自給率は50%にとどまり、比較的安い養殖魚が近隣諸国または北米方面から輸入されている。

輸入食料品は冷凍肉類をはじめ缶詰、野菜、乾物類、飲料、調味料などで、品数は豊富に出回っているが、品切れになることも多い。生鮮野菜、果物などは空輸によってアメリカのマイアミ方面から入ってくる。魚介類はサケ、テラピア、海老などが中心で種類は多くはない。

街には欧米風の商店、スーパーもあり、みりん・醤油・ごま油・豆腐などの日本食材も豊富ではないが手に入る。衛生面については、露店の商品を除けばほぼ清潔であるが、卵・牛乳などは稀に腐っているものがあるので注意が必要。

(2) 主な食品の出回り状況

<米>

米はほとんどガイアナ、スリナム方面からの輸入であり、これらを称してカリビアンライス(またはインディア米、長粒種)と呼んでいる。そのほかはアメリカやメキシコから寿司米(ジャポニカ種、短粒種)が少量輸入され、スーパーや小売店で1kgまたは2kgの袋詰めで売られている。値段は、カリビアンライスが1kg / 2 - 3ECドルに、寿司米はその4倍と、高値が普通である。

<パン>

種類は比較的豊富である。パン専門店・食料品店、スーパーで売られており、焼きたてを好む場合は昼ごろに行くといよい。現地風にアレンジしたココナツ入りロールパンのほか、インド系の店では特有の焼きパン(1枚0.5～1ECドル)なども多く売られている。

<肉類>

肉専門店はないが、卸問屋またはスーパーでは輸入の高級ステーキ用を始め肉類が手に入る。クリスマス休暇前には品切れになる。

<魚類>

輸入冷凍品はスーパーや食料品店でも売られている。地元の魚は街の商店などへ漁業公社運営の魚市場から出荷されている。買い出しに少々時間はかかるが直接市場に出かけたほうが安く手に入る。また、魚市場は地元の漁船が発着する船着き場にあるため、新鮮な魚をその場で買うことができる。乾季の10～5月にはカツオ、キメジ、サワラ、シイラなどの遠洋ものからトビウオ、小アジ、底物魚などが手に入る。雨季の6～9月には魚種は少なくなり、サヨリ、小アジ、底物魚などが出回る。魚市場直販のカツオ、キメジ類などの冷凍魚は、流通段階での管理方法の問題から刺し身にするにはあまり適さない。輸入物はサケ、塩ダラ、てんぷら用エビ類、小イカおよび小魚で、値段は肉より高めでポンドあたり5～8ECドルが普通である。肉類と同様

品切れになることがあるので入荷した時に多めに買っておくが良い。

< 調味料 >

アメリカ製調味料が中心で、香辛料等も豊富。醤油は日本ブランド製、中国製が売られている。

< 食用油 >

国産のココナツ油のほか、輸入物はコーン油、オリーブ油など2～3種ある。

< 酒類 >

洋酒は種類も多く、品切れになることはない。ワインなども欧米産が揃っている。ビールは国産ブランドの「Piton」、同じ会社で瓶詰めされている「Heineken」の他、欧米や周辺国の輸入ビールも売られている。いずれも小瓶あるいはアルミ缶。値段は「ジョニウォーカー黒ラベル」750mlが75ECドル、ビールが2.5ECドル程度と日本よりやや安い。

< 飲料水 >

水道水またはタンクの水を沸騰させて冷やしたものを飲料としているが、ペットボトルのミネラルウォーターも多く販売されている。清涼飲料はコーラ、スプライト、ジンジャエール、果実ジュースのほか現地産ジュースなど品数は多い。

(3) 食料の入手

< 日本食料品 >

ロドニーベイ地区のスーパーで、カリフォルニア米、キッコーマン醤油のほか、みりん、米酢、ごま油、パン粉などが安価ではないが手に入る。その他、食品卸専門店では、大量購入となるが、上記の食料品以外に、日本酒、のり、みそ、乾物などが入手可能である。賞味期限切れのものもあるので注意すること。

魚介類は季節によって水揚げされる魚種が異なり、その数量も少ないので、新鮮な刺し身の材料には苦労する。伊勢エビやウニなどは水揚げ量もわずかで、ほとんどはホテルに流れてしまい、一般の消費者の手には余り入らない。

< 野菜類 >

需要が伸びるにつれ輸入物が小刻みに入ってくるようになった。地元産の野菜はオクラ、きゅうり、細ねぎ、なす、トマト、青梗菜などがあり、スーパーよりも公共市場や露天の方が種類が多く新鮮である。

< 雑貨、菓子類 >

小売店でも売っているが、品揃えの面からスーパーが買いやすく便利である。

< 持参したほうがよい食料品 >

好みの食料品・調味料、日本茶、乾物、海藻などは持参するとよい。

主なスーパーマーケットは以下のとおり。



- ・Super J
- ・Food Market
- ・Glance



Gable Woods モール内の Super J

4-3 食器、調理器具


(1) 食器、調理器具などの入手

陶器や食器専門店も多く、ヨーロッパ方面のブランド店もあり、一般的に品質は悪くない。調理用電気製品は、冷蔵庫をはじめトースター、ミキサー、電気釜もアメリカ製品を主として揃っている。

調理器具、鍋類(ホーロー製品を含む)、フライパン、中華鍋、フライ返し、おたまのたぐいまで結構揃っているので、これらは現地で買ったほうが経済的である。スプーン、フォーク、ナイフも上級品から一般品まで好みに合わせて専門店で手に入る。まな板や包丁は使いやすさの点から見ると少々難点はあるが、現地で購入することが可能である。

安価な台所用品なども中国製のものが手に入るが、日本の100円ショップなどのものより品質は悪く、値段は若干高めとなる。

主な購入先は以下のとおり。

-  Yellow Page
- ・Home Depot
- ・S&S
- ・Mega J Supermarket

(2) 日本から持参したほうがよい食器、調理器具


使いやすさ、切れ具合などから、包丁は種類を問わず菜切り、魚おろし、刺し身用、肉用、併せて入手困難な砥石も、セットで持参するとよい。そのほか、すり鉢、すりこぎ、おろし器、急須、湯飲み茶碗、お碗、はし、菜ばしなど日本食器、料理用小道具も持参したほうがよい。

また、嵩張るがご飯を主食とする場合は炊飯器(220V用)を持参すると便利。電気ポットや魔法瓶は携行用の小型サイズのものが多いが、家庭用の1.8リットル型のものはないので、弁当箱などと一緒に持参したほうがよい。

5. 生活用品の購入 5-1 家電製品



電気洗濯機はアメリカ製品が多く、全自動から2槽式まで好みのタイプを自由に選べる。電気製品が壊れた場合、テレビや冷蔵庫、洗濯機以外は殆ど修理できない。そのほか、冷蔵庫、ビデオ、掃除機、オーディオ機器など、一般的な家電は下記の店で購入できる(詳細はイエローページを参照)。

-  Yellow Page
- ・Courts Ltd.
- ・Mega J Supermarket

5-2 家具

市内にはHome Depotのほか、中小店舗が軒を並べている。

家具は輸入品と国産品があり、商品の種類も比較的多く揃っている。国産品では竹を材料としたテーブル類やいす、ソファなどの人気が高い。輸入品の応接3点セッ

トなどでは2000～3000ECドルくらいである。

勉強机、本棚などは種類が少なく、値段は高めである。

5-3 日用品、雑貨

Yellow Page 日用品、雑貨もほとんどスーパーマーケットで入手可能。文房具類は、M&C、Office Shop、S&Sなどで入手可能。

5-4 工具、素材

日本のホームセンターのような店が数軒あり、釘、ドライバー、金づち、ペンチから、電動ドリル、電動カンナなど、ひとつおりのものが入手可能である。主な店は以下のとおり。

Yellow Page

- ・Home Depot
- ・Mega J Supermarket

6. 金融機関



6-1 金融機関

(1) 銀行

主な銀行は以下のとおり(詳細はイエローページを参照)。

Yellow Page

- ・First Caribbean International Ltd. (FCIB)
- ・Royal Bank of Canada (RBC)

(2) 口座の開設と閉鎖

銀行によるが、口座開設には 身分証明書(旅券)、 セントルシア居住を証明する書類(住居契約、住所の記載された公共料金請求書など)、 開設を予定する銀行宛の本国の銀行口座保有証明書(Bank Reference)が求められる。

通貨は入金外貨(米ドル)であっても自動的にECドルに変わるシステムになっているが、必要に応じてECドルから外貨(米ドル、ユーロ)に換金可能である。

口座は普通預金と当座預金(小切手帳、利子なし)があり、個人の場合は普通預金が一般的。当座預金は発行した小切手が全部銀行に回収されないと、銀行側で最終的な閉鎖手続きができないことがあり、ケースによっては、保証人を立てて口座を閉鎖することも必要となることから、閉鎖手続きは早めに行うことが望ましい。

(3) 小切手

一般の買い物でも、セントルシア国内銀行の小切手は使用可能。当座預金口座を開設すれば銀行が小切手帳を発給してくれる。

(4) 換金方法

日本円の交換は不可能。現地通貨(ECドル)と両替可能なのは、米ドル、バルバドスドル、カナダドル、ユーロである。換金できる場所は、空港、銀行、ホテル。また、大型スーパーでは米ドルでの支払も可能である。

なお、偽装紙幣が多く流通しているため米100ドル札を受け取らない商店が多くあ

るので、現金を持参する際には注意が必要。

6-2 クレジットカード

MasterCard、VISA、American Expressはホテル・大型スーパー等で使用可能。また、ATMからの現金引き出しも可能。JCBは使えない。

7. 交通事情



7-1 交通手段

(1) 一般事情

車は日本と同じく左側走行である。

自家用車以外の交通手段はミニバスかタクシーであり、不定期ながらミニバスの路線数は多い。通勤や移動には自分で運転するのが便利であるが、朝夕の通勤ラッシュ(7:30~9:00、16:00~18:00)は交通渋滞が激しく、通常なら15分程度で移動できる距離であっても1時間ほどかかることもある。また、交通事故の際には警察の現場検証が終わるまで車を移動しないため、事故渋滞も多い。空港など定時に到着する必要がある場合は必ず余裕を持って移動すること。

幹線道路は島の外周および東西横断道路のみであり、道路案内標識もわかりやすく表示されているので迷うことは殆どない。ガソリンスタンドはどこかの町村に入っても必ず何軒かあるが、週末や祭日は閉まる店も多いので、余裕を見て早めに給油する。ガソリンは日本よりやや安い。

地方でのドライブでは、町村ごとに山越え道路を通過することになる。特にカリブ海側の道路は急坂、急カーブが多く、見通しの悪い場所があるので、安全運転を心がけることである。

<バス>

ミニバスがほとんどで、定員は15人程度。時刻表なしで運行している。発着場所は行き先により、それぞれのバスターミナルがある。行き先はバスに記載された番号で確認する。市内のバスターミナルから、北コース(ロドニーベイ方面)、西海岸コース(アンス・ラ・レイ、スフレ方面)、東海岸コース(デナリー、ビューフォート方面)などのコースに分かれているので、乗車前に必ず行き先を確認すること。客がいっぱいになるといつでも発車する。途中で乗車する場合は、近くの停留所まで歩く。下車する場合は声をかければ近くの駐車場で止まってくれるので、目的地は必ず覚えておく必要がある。料金は最低乗車区間が1.5ECドル、いちばん遠い路線のビューフォートまでで8ECドルである。

ミニバスの車内は狭く、込み合う時間帯などは身動きができない状態になるので、荷物がある場合はしっかり膝の上に乗せるなど注意すること。

<タクシー>

タクシーは市内のタクシー乗り場かホテルに常時待機している。メーターがないので、乗る前に必ず料金を確かめること。料金は地域間毎にタクシー協会が定めて

おり、市内で15～20ECドル、カストリーズ/ロードニーベイ50ECドル、カストリーズ/ビューフォート200ECドルなどとなっている。

<空路>

国内航空便はない。東カリブ諸島全体をひとつの地域としてとらえており、島と島を結ぶルートは、Liat Air(The Caribbean Air Line)、Martinique Airの2社が運行しており、LIATが路線・便数とも最も多い。ヨーロッパ線は英国航空、バージンアトランティックの2社が、北米路線はアメリカン航空、カナダ航空、デルタ、ジェットブルーの4社が運行している。

空港は、大型機専用のHewanorra国際空港(ビューフォート)と小型機専用のVigie 空港(カストリーズ市内)とがあり、どちらも国際空港なので間違わないよう自分のフライトの発着空港を事前に確認すること。Hewanorra国際空港とカストリーズ市間は陸路で約60kmあり、車で約1時間かかる。ほとんど時刻どおりに発着するので、出発する際は2時間前には必ずチェックインすること。

(2) 空港から市内への移動

Hewanorra国際空港とVigie空港ともに乗り合いバスの運行はなく、一般的にはホテルからの出迎えバスを利用するか、タクシー、レンタカーの利用となる。Vigie空港からカストリーズ市内のタクシー料金は25EC\$(10米ドル)、Hewanorra空港からカストリーズ市までのタクシー料金は200ECドル(75米ドル)が目安である。

(3) 自家用車を利用する場合

市内の道路は一方通行が多いので、道路標識には常に注意する。また、車幅ぎりぎりの狭い道も多く、運転には細心の注意を要する。市内の道路は基本的に駐車禁止であり、殆どの建物には駐車場がないため駐車スペースを探すのに苦労する。市外に出ると、山越えの道路に変わり、急坂、急カーブで運転未熟者には骨の折れるドライブとなる。したがって、道路事情を含めて交通環境に慣れた上で運転することが望ましい。

割り込み、追い越し、車間距離を置かないなど、ドライバーの運転マナーは悪い。運転の際は前方および後続車にも常に気を配ること。右折、左折の場合などは早めにスピードを落とし、ウインカーサインもできるだけ早く出すことが追突されない予防策のひとつとなる。

車を運転する場合は、免許証、保険証書のコピーを必ず携帯すること。車両保険は強制で、取り締まりの時に警察当局は免許証よりむしろ保険証書のほうに関心を寄せる。保険加入及び車両登録の更新は忘れずに行うこと。

車の故障の際は、専門の出張修理サービスなどがないので、最寄りの修理工場などに直接依頼するしかない。地方などでは、通りがかりの車や通行人に聞けば親切に教えてくれる。

(4) レンタカーなどを利用する場合

レンタカーは空港、ホテル、大型ガソリンスタンドなどで受け付けている。レンタル料は普通乗用車の場合、保険料込みで1日150～200ECドル、銀行クレジットがあ

れば簡単に貸してくれる。主なレンタカー会社は、次のとおりである(詳細はイエローページを参照)。

- Yellow Page ・AVIS Rent A Car
- ・Budget Rent A Car
- ・Cool Breeze Jeep Rental

そのほか、多くの代理店および系列の受付窓口があるので便利である。

(5) 地図

地図は本屋、スーパーマーケット、路上の売店で買える。また、空港・ホテルの受付などで入手できる観光情報誌『Visitors Guide』にも詳しい地図が掲載されており、観光案内も掲載されているので便利である。

7-2 交通事故、盗難

(1) 対処方法

事故原因は飲酒運転、無理な追い越し、スピードの出しすぎが上位を占めている。事故に巻き込まれた場合には、現場がどんなに混み合っても事故車は警察が駆けつけるまでそのままの状態にしておくことが、後の事故処理に役立つ。まずは冷静さを失わず、たとえ加害者であっても静かに待つことが必要である。事故後は速やかに保険会社に手続きをとり、交渉は保険会社に任せるとよい。人身事故でなければ事後処理は比較的スムーズに済む。軽い接触事故であっても相手の出方次第では警察を呼ぶことが正しい解決となるので、面倒など考えないこと。

(2) 救急病院

人身事故の場合は救急車(電話 :911)を呼ぶことになるが、自分も怪我をしている場合などは、貴重品、車の管理を駆けつけた警官に委ねる(氏名、警官番号を確認しておく)。救急病院は国立総合病院1カ所(Victoria Hospital)。希望すれば民間のTapion Hospitalも受け入れ可能。(「6-2(1)医療機関」参照)であるが、他のかかりつけの医師がいれば、国立総合病院での手当て後にそちらに行けばよい。))

(3) 車両の盗難、車上荒らし

小さな島であるが車の盗難、タイヤや窓ガラス、冷房機、ステレオなどの部品の盗難も多く発生している。この種の盗難はたとえドアロックが確実であっても予防は難しい。自宅ではガレージのドアを忘れずに閉める、郊外では人通りの少ない場所にはできるだけ駐車しないなどの注意が必要となる。また、スーパーなどの駐車場で、車内に置いてある荷物、貴重品が盗まれる事件が多発しているため、ドアロックや窓の全閉を確実にこなうことが必要である。部品などの盗難に遭った時は速やかに盗難届を警察に出す。内容によっては、保険でカバーできることもある。

7-3 交通違反

(1) 交通法規

日本と同じく左側通行である。しかし信号機が少なく、一方通行や進入禁止など

の道路標識が見えにくい場所が多い。市内では一方通行区域も多く設けられているので、あらかじめ道路規制区域を頭に入れておくといよい。

車両登録は1年更新(商用車は半年)で陸運局にて手続きを行なうが、その際、車検・保険を確認されるので、予め修理工場で検査を受け、保険加入を済ませておく。

(2) 罰金、罰則

白バイ(日本と同じ白塗りのオートバイ)やパトロールカーは定期的に巡回しているが、スピード違反や駐車違反の摘発には無関心で、検問では免許証や保険加入の有無をチェックする程度である。必要証書を持っていないなどで摘発を受けた場合は、警官の指示に従ってできるだけ早く指定された窓口に出頭すること。万一、交通違反などで捕まった場合は違反金を支払うことになるが、指定された窓口に指定期間内に支払うこと。違反の内容次第では、日本と同じように免許証に記載されることもある。


7-4 車の修理

(1) 部品

輸入車の比率は圧倒的に日本車が多いが近年は韓国・中国製なども増えてきている。各メーカーのディーラーではひとつおりの部品を用意しているが、輸入中古車や数の少ない車種などの場合はアメリカや日本から取り寄せることになる。部品の取り寄せ期間は、平均して2～3週間である。

(2) 修理工場

ディーラーの修理工場のほかにも大小修理工場は多いので、どこの工場を選ぶかは自分の好みによる。どこの修理工場でも技術者のレベルは比較的高く、殆どの修理は可能。主な修理工場は以下のとおり。

-  Alfred Victor's Garage
- Mauricette's Auto Repairs

8. 通信



8-1 電話

(1) 一般事情

電話事情はよく、通話障害時の対応も比較的良好といえる。

架設は所定のフォームを揃えて電信電話局に申請するが、携帯電話が普及する一方で一般電話回線はそれ程増えておらず、開通に1ヶ月程度かかる。最近では携帯電話の方が広く普及しており、固定電話を持たない家庭もある。

公衆電話はホテル、学校、空港や街角などに設置されているが、国際電話がかけられる公衆電話は電話局および空港などに限定され、台数は少ない。

(2) 国内電話

地方別にコード番号が設けられており、カストリーズ市の場合は45から始まる3桁の番号がつき、合計7桁となる。

(3) 国際電話

一般電話で国際ダイヤル通話が可能。交換手を経由した場合30～40%高くなる。日本へのダイヤル通話は011-81(国番号)に市外局番の0をとった番号を続ける。日本までの通話料金は1分1.29米ドルである。

(4) 携帯電話

携帯電話はCable & Wireless (LIME)、Degicel の2社がある。機種はNOKIA、Motorola、Samsung が一般的であるが、SIMロックがかかっているため、同一機種で他社のSIMに変更することは出来ない。スマートフォンも広く普及している。電話会社に行って申し込みれば、その日のうちから使用可能な携帯電話が入手できる。料金はインターネット使用など契約内容によるが通話・テキスト使用のみであれば月額約50ECドル、通話料金は1.35ECドル/分程度である。

8-2 電信

(1) ファクシミリ

普及率は高く、法人、団体、一般の会社など、ほとんどに設置されている。

(2) テレックス

該当情報なし。

(3) 電報

該当情報なし。

(4) インターネット

プロバイダーは2社のみ。申し込みから開通まで通常2～3週間程度かかる。



・Cable & Wireless

・Karib Cable

8-3 郵便

(1) 一般事情

日本からの通常郵便物(手紙、印刷物)は、平均して2週間かかる。戸配達制度がないので、私書箱を持たない家庭は、勤め先の住所か家主の住所番号を借りることになる。郵便小包の場合は、郵便局から通知があるので窓口に行き、本人立ち会いの上で税関職員が中身を確認し必要に応じて税金を払って引き渡される。

書留封書については、セントルシアから発送する書留封書は日本を含めて確実に届いているが、セントルシア宛のものに関しては、中央郵便局から通知が届かないことがたびたびある。

国内郵便の料金は、20セント～(重さにより異なる)。所要日数はまちまちで一定していない。早いものは2～3日で届く。

国際航空郵便は、日本までではがき0.75ECドル、封筒1.35ECドル～。日本までの所要日数は2週間から1カ月程度。

街中には日本のような郵便ポストはなく、ホテルの受付に依頼するか、あるいは郵便局の投函口へ直接投函しなければならない。

(2)課税

カメラ、時計が20%、衣類が25%、トランジスタラジオ、ビデオカメラ、テレビが30%、パソコン、コンピューターが20%などである。ただし、これは商用に輸入した場合で、個人で携行した場合には課税されない。

(3)国際宅配サービス

次のような国際宅配サービスが利用できる。



- ・DHL
- ・FedEx
- ・UPS

9. コンピューター



9-1 ハード、ソフト

(1)調達の方法

英語仕様のパソコンは現地調達可能。ほとんどWINDOWSで、Macは非常に少ない。プリンターはキャノン、HPが主流で、その他周辺機器もほとんど入手可能。ただし、日本語仕様のものは入手不可能である。

(2)使用の際の注意

スタビライザーはあったほうがよいが、なくても特に問題ない。ウイルスソフトなどは日本から持参したほうが無難。

(3)修理

日本語仕様のパソコン・プリンタ等の修理は困難で、DHLなどで送付し日本で修理を行っている。

10. 職場環境、勤務条件



10-1 職場環境、勤務条件

(1)就業時間

就業時間は、8:30～16:30、昼休みは12:30～13:30が一般的で、残業はあまりない。

(2)有給休暇

公務員は1年に20日。

(3)執務室

通常、専門家は個室が与えられる。ボランティアはケースバイケース。

(4)通勤事情

自家用車、もしくはミニバス、徒歩で通勤する。

11. 出入国手続き



11-1 入国

(1) 空港施設概要

大型ジェット機離着陸機能を持つHewanorra国際空港(ビューフォート)と小型機専用の Vigie (George Charles) 空港(カストリーズ市内)がある。入国の際はどちらも使用する。

(2) 入国手続き書類

入国の際に必要なのは、入国カードとパスポートの提示であるが、不法滞在または不法就労を防止するために予めビザがない場合は出国チケットの有無を確認されることがある。また、入国カードの下部に出国カードがついており切り離して返却されるので、次回出国時まで保管しておく。

(3) 入国審査

一般に観光目的であれば審査は寛大であるが、ビジネス目的の場合はビザの有無からチケットの確認をはじめ、質問も多くなる。日本人は、出国航空券があれば6ヶ月間の滞在はビザ無しでも問題ない。

(4) 税関検査

麻薬と拳銃所持の有無、酒やタバコの数量確認など、販売目的の物品持ち込みも多いことから、ケースによっては厳しく検査されることもある。税関申告書は入国カードの裏面になっているので忘れずに記入すること。

(5) 空港内での留意点

該当情報なし。

(6) 出迎え

空港内で出迎えの場所を制限されており、通関出口の外しか入れない。

(7) 空港からの主な交通手段

Hewanorra国際空港、Vigie空港ともに乗り合いバスの運行はなく、一般的にはホテルからの出迎えバスを利用するか、タクシー、レンタカーの利用となる。Hewanorra国際空港は島の南端に位置しており、北側のカストリーズ間の移動には車で平均1時間はかかる。

(8) その他の留意点

特になし。

11-2 出国

(1) 出国時の概要

Hewanorra国際空港、Vigie空港ともに出国手続きカウンターは航空会社別に区分されているので、手続き上場所に迷うことはない。

(2) リコンファーム

Eチケットによる搭乗の場合、最初の区間の搭乗で以降の便のリコンファームが行なわれる。不安がある場合、72時間前までに航空会社に確認する。

(3)チェックイン

アメリカ行きの搭乗にはESTA登録およびアメリカ国内での宿泊先情報(トランジットを含む)を求められるので予め準備しておく。入国時に記載した出国カードを提示するため、入国時に記載したカードは紛失しないように注意すること。

(4)空港利用税

25米ドル(70ECドル)。通常は航空券に含まれる。

(5)その他の留意点

朝夕の通勤時間帯や事故渋滞で空港までの移動に大幅に時間がかかることもあるので、特に帰りの移動は余裕を持って行動することが望ましい。

11-3 帰国手続き

(1)帰国時に必要な事務手続き

住居/事務所の明け渡し・精算、銀行口座閉鎖、公共料金の精算などを行なう。

(2)車の処分

時間的余裕を持って売りに出すこと。売却価格の目安を知るため最寄りのカーディーラーなどで査定価格を調べるのも一方法である。「For Sale」の貼り紙に電話番号を記して自動車の後部ガラス窓に貼っておくのが一般的な方法であるが、そのほか職場や友人、知人を介して買い手を探すのもよい。

売却対象者の選定の際は、現金支払い能力があるかどうかを見極めることが大切である。あとは引き渡し期日、支払い方法などを取り決めて完了となる。また、車両保険は契約者と保険会社の間にかかるもので、新しいオーナーとの間に関係は生じない。よって売却後は速やかに保険会社で解約手続きをとるとよい。

(3)家財道具の処分

売却の場合は知人を介して売却相手を紹介してもらうことも可能だが、一般にはパーティーやガレージセールなどの場を利用して複数の希望者を探すことが多い。また、子供の教科書や参考書、あるいは衣類などは教会関係の慈善団体などに寄付するのもよい。

セントルシアからの海上輸送は太平洋線および大西洋線のどちらを選んでも、ほとんどがアメリカのマイアミを経由している。途中での積み替え時に起こりうる紛失の補償ができないため、段ボールのバラ荷物は受け付けておらず、コンテナ契約に限定されている。したがって船便の利用には難点がある。

航空輸送はいかなる荷物も引き受けてくれ、発送荷物さえ指示すればインボイス作成、保険加入に至るまで行ってくれる。輸送料金はキログラムあたり、手数料込みで50ECドル(2000円)以上となる。

郵便小包は最大10kgまで(サイズの上限は3×3×3フィート)で、料金は1kgまで62ECドル、1～3kgが135ECドル、3～5kgが196.55ECドルである。

日本までの輸送日数は航空貨物同様、約2週間がめどとなっている。

(4)住宅の明け渡し

契約によって多少の違いはあるが、通常、退去予定の2カ月前に家主に相談し、住居の明け渡し日を取り決め、事前準備を整えること。

明け渡し前の作業は電気、電話、ガス、水道それぞれの局に連絡して解約手続きをとり、最終日のメーターチェックをどうするか確認する。契約時に支払った保証金は通常契約満了時に返金されることになっているので、これらの返金方法等も確認しておく。家具付き契約の場合、家具や調理器具などの損傷の有無、数量を調べ、損傷や不足があれば現物で弁済するか、保証金から差し引くことになる。

(5)外貨持ち出し規制

ECドルは簡単に外貨(米ドル、ユーロなど)に換金できる。

10万米ドル以内なら外貨交換規制はなく、1万米ドル以内なら現金持ち出し可能。

12. 治安、 緊急時の心得



12-1 暴動、クーデターなど

(1)一般事情

特になし。

(2)対処法

該当情報なし。

12-2 強盗、盗難

(1)一般的治安状況

麻薬や銃の密売がカリブ地域共通の問題となっている。銃が広く出回っており、犯罪組織間の抗争や怨恨によると思われる殺人、侵入窃盗・強盗などが増加しているが、警察の取締り、捜査能力は低く殆どの事件で犯人は捕まっていない。

JICAはカストリーズ市内の一部(Marchand; マーシャ地区および周辺)を危険地域とし、目的/時間を問わず当該地域への立入を禁止している。その他の地域は日中であれば問題はない。しかし、市内全域、夜間および人通りの少ない路地などでは路上強盗、引ったくりなどへの注意が必要である。

過去2年間の日本人の被害例としては、ロドニーベイ地区路上でのナイフ強盗1件、カストリーズ市内住宅地での空き巣被害が1件あった。

(2)住宅の防犯対策

ほとんどの住居の窓には鉄格子がついており、ドアにも鍵は最低2つついているおり比較的安全であるが、家に人がいても目が届かない隙を狙う居空きの例もあるので、家にいる時も窓やドアの鍵は締めておくことなどの注意が必要。

(3)市中での防犯対策

夜間の外出は控え、日中でも人通りの少ない路地は1人で歩かないこと。また、現金はいくつかに分けて持ち歩く、防犯ベルを持ち歩く、肩掛けバックは常に体の前側にもつ、人通りの少ない場所では周りの人の動きに注意する、物乞い等見知らぬ人間に声をかけられても不用意に相手をしないなど、一般的な防犯対策は必要。

(4)注意すべき場所、危険地域

カストリーズ東側のマーシャ地区。

(5)被害時の心得

警察に通報する際には犯人の性別、年齢、容姿、服装などが犯人検挙に役立つため、状況などはよく覚えておくこと。但し、警察の検挙率は低く、被害の回復は期待できない。

12-3 火災、風水害、地震

(1)一般的災害発生状況

数年に1度大きなハリケーンの被害を受けることがある。ハリケーンが迫ってくると、テレビ、ラジオで警告が流されるので、職場の同僚や近所の人などからも情報を収集しておき、ニュースは聞き漏らさないように心がけること。

(2)防災対策

ハリケーンで被害が大きくなると、物資の入手も難しくなるので、あらかじめミネラルウォーター、非常食(乾燥めん、缶詰など)は数日分用意しておくこと。インフラ・システムが脆弱な為、ハリケーンによる停電及び断水の長期化に備え、生活用水、ろうそくや懐中電灯などの備蓄も心がけること。また、住宅の周囲に立木や崖などがある場合は倒木や崖崩れの可能性に注意する。必要に応じて大家に相談し、予め立木を切る、ドアや窓を補強するなどの対策を求める。

(3)被災時の心得

日本と同様、最新の情報を入手し、自分からも無事である旨を速やかに関係者に伝えること。

12-4 緊急連絡先電話番号

・在トリニダード・トバゴ日本大使館 :+1-868-628-5991

(セントルシア国内に日本大使館はなく、在トリニダード・トバゴ日本大使館が兼轄)

・警察 :999

・消防、救急車 :911

13. 社交**13-1 風俗習慣**

若者は、ディスコ、バーなどで過ごすことも多く、伝統楽器のスティールパンは、各種催しで演奏され、カーニバルには各バンドの大会も行われることがあるほど人気のある楽器である。

一般的に酒を飲んでも、暴力的になることは少ないが、飲酒運転などは多いので週末の夜の運転は控えたほうがよい。

マリファナなども出回っていて自由に買えるので、夜のバーなどで勧められても決して手を出さないこと。

13-2 パーティーでの留意点

結婚、誕生日、祝日などのパーティーは、招待状の発送から準備が始められるので、出欠の態度ははっきり示さなければならない。服装についてもはっきりフォーマルかカジュアルかが示されるのが普通であり、フォーマルの場合、男性は黒または紺系統のスーツ、女性はパーティードレスで装うのが一般的である。

13-3 来客時の留意点

ごく親しい友人の集いなどでは飲食より話が主であるが、来客が日本人であれば日本的なメニューでもてなすと大変喜ばれるので、はし、茶碗などもできるだけ備えておきたい。また、傾斜地に建つ家が多いため室内には段差が多いので、来客を迎えることに必ず注意すべき場所を説明すること。危険箇所にマットやイス、小テーブルなどを置くのも一方法である。特に子供連れの来客には十分注意したい。

13-4 訪問時の留意点

パーティーへの参加は夫婦同伴が普通である。時間はできるだけ守ること。

13-5 禁止されている言動(タブー)

常識の範囲から脱しないことである。

13-6 日本人会

日本人会はない。

13-7 JICA帰国研修員同窓会

2011年10月現在、立上げ準備中である。

13-8 現地の人々との交流

セントルシア人は一般に明るく社交的である。外国人などコミュニティー外の者には一定の距離をつくることがあるが、一度顔見知りになれば壁はなくなる。特別な機会はないので、自分で積極的に機会をつくらなければ、交流はない。

14. 教育



14-1 教育事情

(1) 一般事情

教育制度はイギリスのシステムを採用している。5歳がPre-School Program(幼稚園)、6～11歳がPrimary School(G1-6)、12～16歳がSecondary School(G7-11)である。義務教育はG1-9で、原則として学費は公立の場合、Secondary Schoolまで、実質的に無料である。

大学は2年制のSir Arthur Lewis Community College(教養、教員、工学、保健、

農業の5学部)のみであり、4年制を希望する人は西インド大学(バルバドス、トリニダード・トバゴ、ジャマイカ、セントルシア等のキャンパス)に転校し、コースに拠るが2~4年間勉強する。

日本人子弟の場合は語学に力を入れざるを得ないため、他の課目が遅れてしまいがちである。そのため、場合によっては通信教育が必要になるので、赴任前によく調べ、準備を整えることが望ましい。特に小学生を同伴する場合は、将来的な教育のことまで考えることが必要である。

(2)日本人学校

日本人学校はない。

(3)現地校、外国人学校

<現地校 / 私立>

私立校は地方を含め複数設立されており、Infant School(7歳未満)およびPrimary School、私立のSecondary Schoolも以下の2校設立されている。授業料は公立と違い、有料となる。

- ・ Bonne Terre preparatory School
- ・ St. Lucia International School

<現地校 / 公立>

Infant School(幼稚園)、Primary School(小学校)、Secondary School(中学、高校)ともに公立校への入学は政府教育省(所在地 : Francis Compton Building, Waterfront, Castries FAX : 453-2299 URL : <http://www.education.gov.lc/> E-mail : mineduc@candw.lc)へ申し込む。

外国人の場合は、小学生の場合、在籍していた学校からの転校証明を申請書に添付すればよい。公立校は地方にも多く開設されているので、居住区によって学校を選ぶことができる。

Primary Schoolを卒業して Secondary Schoolに進学するとき、小学校卒業時にコモンエントランスという卒業試験を受ける。この成績によって、生徒の進学できる学校が決定される。小学校卒業時で学力別に学校を振り分けるシステムである。

よって、日本からSecondary Schoolに編入する場合は、教育省に申請した上で、このコモンエントランス試験を受け、その成績で学校が決める。また、申請時から実際に学校が決定するまでに多くの時間を要することがある。

カストリーズ市内にあるSecondary Schoolは、上位から St. Josephs Convent(女子校)、St. Mary's College(男子校)、Castries Comprehensive、Leon Hess 校等である。

地方でもSecondary School はあるが、小学校時の試験で成績が良かった生徒は無理してでも遠くの有名校に通うことがある。

生徒はInfant School からSecondary Schoolまで学校単位で制服が異なる。また、本や教材の購入先を学校側で指定する場合があるので、制服などとあわせて確認すること。

経費について、授業料は基本的には無料であるが、登録料・施設費のほか、教科書代、制服代などがあり、価格は学校、学年により異なるため、個別に問い合わせたほうがよい。

(注)週5日制で、夏休みは2カ月、各学期末に2～3週間の休みがある。最近では日本と同じように塾や家庭教師を利用する家庭も多く、勉強熱はますます高まる傾向がある。

なお、一部の公立学校ではスクールバスを運行している他、一部の私立校などの場合は一般のミニバスを学校に横付けしてもらい、スクールバスのように利用するほか、居住地が近い保護者同士が共同でタクシーを借上げるなどしている。ミニバスは不定期ではあるが、どこの路線も本数は多い。

<外国人学校>

2006年9月に開校した、St. Lucia International School があり、生徒が増えるにしたがってクラスを増設しており、2011年現在、幼稚園から高校3年生まで運営している。教育方法はカナダ式を採用している。しかしながら、日本の学校と比較して、カリキュラム・学習内容のレベルは高いとは言えない。

(4) 保育園

2～4歳児対象(稀に乳児も含む)の保育園は私立のみ。カストリーズの主な外国人を受け入れる園は、次のとおりである(詳細はイエローページ参照)。



- ・Happy Vale Montessori Pre School
- ・Aunty Punky's Montessori Pre School
- ・Saint Joseph Convent Pre School
- ・Tapion Pre School
- ・Wee Wisdom Montessori Pre School

14-2 教育関係施設

(1) 図書館など

カストリーズ市内に1館あるが、日本語の教材やそれに類するコーナーはない。



ほとんどが英語版である。

15. 家庭の使用人



15-1 一般事情

一般的に、掃除、洗濯が主な仕事だが、交渉次第では料理なども作ってもらえる。ただし、日本食はまず不可能。雇用形態は、毎日～週1回など、さまざまである。料金も交渉次第である。必要な場合は、通常、家主経由で探してもらえる。

15-2 運転手

(1) 雇用

要人、高官、会社組織の場合は専門の運転手を雇っているが、一般には各自が

運転している。運転手の賃金は勤務時間によるが1か月1200～1500ECドルで、遠距離通勤の場合はバス代を別途支払っている。

(2) 日常管理

該当情報なし。

(3) 教育指導

該当情報なし。

(4) その他の留意点

該当情報なし。

15-3 家政婦 / 夫

(1) 仕事の種類と人数

家政婦の仕事は一般的には掃除、洗濯、アイロンがけ、皿洗い、子守で、なかには料理も任せる家庭もある。近年は夫婦共働き世帯が増え、育児専用に家政婦を雇う家庭も少なくない。

(2) 雇用

雇用方法は、信用のおける人を介するか、または家主に相談して紹介してもらう。契約は口頭で決めるのが普通で、正式な契約書などによらない。週2～3回が標準で、たとえ使用人部屋があっても、毎日働く場合を除き、ほかの家庭でも働けるように通いのほうを好む。

家政婦の平均賃金は勤務時間によるが、週3日で1か月400～500ECドル、育児専用の場合もほぼ同額が標準である。また、日額は60～70ECドル程度が目安。そのほか、誕生日やクリスマスなどの大型休日にボーナスを出すのが普通であり、昇給、超過勤務手当などはケースバイケースとすればよい。食事は家庭によって異なるが、昼食はだいたい出している。試用期間はほぼ1か月である。

(3) 日常管理

現金や貴重品は日ごろから厳重に管理する。単身者で家の鍵を預ける場合は面倒でも貴重品やパソコンなどは常に鍵のかかる机等に保管するなど注意すること。仕事の上で問題点があれば、徐々に指導する。

15-4 庭師、ガードマン

庭師への報酬は、庭の草刈りは広さにもよるが、150坪程度で150ECドルが相場である。

ガードマン付きの住宅以外で個別に雇う場合は、警備会社に相談すること。主な警備会社は次のとおりである(詳細はイエローページを参照)。



- ・Alternative Security Services
- ・G4S Security Services

16. メディア



16-1 新聞、雑誌

(1) 現地発行の新聞

日刊紙はないが主な新聞は次のとおり。すべて英語である。

「The Voice of St. Lucia」(火・木・土)、「The Star」(水・土)、The Mirror (金)。

「The Voice of St. Lucia」、「The Star」は幅広い記事を扱い発行部数も多い。新聞はスーパーや商店または路上の売店などで買うことができる。

(2) 日本の日刊紙

セントルシアでは入手できない。通信販売の手続き窓口もない。したがって、新聞・雑誌類の購入については日本でOCS等に申し込んで手続きを済ませなければならない(詳細はイエローページを参照)。新聞の場合、約2週間遅れで届く。

(3) 欧米紙/誌

欧米紙は、数は少ないが書店やスーパーなどで求めることができる。通信販売の場合は雑誌、娯楽書、スポーツ関係など種類も多く、地元の斡旋会社を取り次いでくれる。取次窓口は、次のとおりである。



・Book Salon (AF Valmont & Co. Ltd.)

・Sunshine Book Shop

(4) 日本の雑誌、書籍

OCS(上記「(2) 日本の日刊紙」を参照)等を経由して入手する以外に方法はない。

16-2 ラジオ

(1) ラジオ放送局

ラジオ局はFM・AM数局あり、主にニュース、音楽などを中心に放送している。

(2) NHKワールド・ラジオ日本(ラジオジャパン)

NHKワールド・ラジオ日本の北米、中米向け放送を受信できる。周波数は、3月末と10月末に変更するので、周波数表を入手のうえ、確認すること。性能のよいラジオを持参すれば、直接受信も可。

<ラジオジャパン問い合わせ先>

NHK国際放送局企画編成部

<周波数表、番組表の入手>

URL : http://www.nhk.or.jp/nhkworld/japanese/radioguide_j.html

(周波数表、番組表確認)

郵送 : 上記NHK国際放送局企画編成部に請求する。(無料)

(3) 聴取可能なその他の外国放送

アメリカ、カナダ、中南米諸国の放送が入ってくる。FM放送は周波数の違いによりふつうの日本製ラジオで聴ける局は限定されるので、聴きたい人は周波数の幅のあるものを持参するとよい。セントルシアでも購入は可能。

16-3 テレビ

(1)地上波放送局

ローカルテレビ局は政府系のGovernment Information Service(GIS)、民放はHelen Television System(HTS)、Daher Broadcasting Service(DBS)、Think Caribbean Television(TCT)、Choice TV の他、観光案内専門、宗教系などがあり、国内だけでなく、カリブ諸国・アメリカのニュース番組も放送している。

(2)衛星放送、ケーブルテレビ

ケーブルテレビは早朝から深夜まで放映し、チャンネル数は60余りある。CNN・BBC等のニュース番組の他、映画、スポーツ、音楽、子供向け専用チャンネルが多数ある。

ケーブルテレビ会社はCable & Wireless、Karib Cableの2社があり、料金はインターネットとの組み合わせなどにより多少異なるが、月額約50EC程度。新たにケーブルを敷設するには数ヶ月かかることもあるため、住居を選ぶ際にケーブルテレビ回線の有無も確認しておくが良い。

地元の衛星放送はない。NHKワールドTV、NHKワールド・プレミアムを見るには、別途大型の衛星アンテナなどの設置が必要。

< NHKワールドTV問い合わせ先 >

NHK国際放送局企画編成部

E-mail : nhkworld@nhk.jp

< 番組表の入手 >

URL : <http://www.nhk.or.jp/nhkworld/> (週間番組表確認)

(3) テレビ受信

テレビ受像機は日本と同じくNTSC方式だが、日本の国内仕様のもものは電圧が異なるので変圧器が必要になる。

現地では中国製や韓国製の製品が多く、日本ブランドもある。価格は日本よりやや高い程度で、輸送費用や通関の手間を考えると現地で買うほうが得策である。

なお、テレビガイドについては、ケーブルテレビ局で1か月分プリントしたプログラムを無料で入手できる。

番組再生機器はDVDプレーヤーが主流でテレビと同様中国製や韓国製の製品が多く、日本ブランドもある。再生専用機が多く、録画機能付きは種類が限られる。価格は日本よりやや高い程度。セントルシアは著作権保護法が整備されていないため、海賊版DVDが多数販売されているが、地域コードの違いにより日本のプレーヤーでは再生できない場合がある。ビデオデッキは一般的ではなく、市販されている機種や数も少ない。日本から持参する場合はVHSシステムにすること。

17. スポーツ、 趣味、 語学学習



17-1 スポーツ

(1) ゴルフ

Sandals Regency Hotel (国内に3箇所あるSandals Hotelの一つ)経営のゴルフ場とCap Estate地区(カストリーズより約12km北)のSt. Lucia Golf Clubの二つがある(詳細はイエローページを参照)。Sandalsは9ホールだがCap Estateは18ホール。ビジターでのプレーも可能だが料金は85USドルと安くはない。メンバー会費は年間5000ECほど。

市内にはゴルフ用具専門店はないが、上記2箇所のゴルフ場ではプロショップを構えておりクラブ、ウェア、シューズ、ボール等を購入できる。品質は普通だが、品数は少なく価格も日本並みである。



- ・St. Lucia Golf Club
- ・Sandals Regency Hotel

(2) テニス、フィットネス



テニスクラブも少数あるが、外国人の場合はホテルの会員制クラブを利用する人が多い。2010年8月に台湾の援助によりBeausejour(Cap Estateのややカストリーズ寄り、国立クリケット場や体育館がある)にNational Tennis Center(ハードコート6面)が建設され、一般にも開放されている。

エアロピクス、ジムなどのスポーツクラブも数箇所ある。ロドニーハイツ地域のジム‘Sportivo’は、欧米並みのプログラムを提供しており、在住外国人利用率が非常に高い。(年会費150ECドル、月額150ECドル)

(3) その他のスポーツ

< 水泳 >

Rodney Bay 地区(カストリーズより約10km北)にAquatic Centerというスイミングクラブ(25m、8レーンの競泳用プール)があり会員制で一般にも開放している。

リゾートホテルにはほとんどプールが設備されており、一流ホテルでは2~3のプールを有しているものも少なくない。プールの水は淡水で衛生面も行き届いている。

海水浴場としては、海岸に面したホテルでは専用ビーチを持ち、カストリーズ近郊、または北側のロドニーベイ方面に行けばカリブ海に面した美しく広い海水浴場がある。

< その他 >

近年は特にサッカー熱が高まり、女性チームの試合も盛んに行われている。そのほか、クリケットは伝統的なスポーツで、東カリブ諸国、また中南米諸国を含めた国際試合もたびたび催されている。なお、スポーツシャツ、ズボン、シューズなどの種類は少なく、割高である。

17-2 趣味

< 園芸 >

園芸を趣味とする人は多く、ときどき品評会も催されている。中流以上の家庭にな

ると、庭はもちろん、応接間にも所狭しと盆栽や鉢植えを飾っている。

農水省園芸部では試験場を設け、庭木用の苗木や観葉植物を生産し販売している。ホームセンターなどでも草花のほか観賞用苗木、肥料や土、容器など品数を多く揃えている。切り花や鉢植えなどはスーパーなどで手軽に求めることができる。

<釣リ>

観光の売り物にスポーツフィッシングが加わっており、季節によっては豪快なトロリングも楽しめる。船宿はホテルでも紹介してくれるが、ロドニーベイに行くと船着き場が何か所もあり、そこで船宿を探すのもよい。利用する場合は早めに予約をとることが望ましい。磯釣りは岩場が険しいので一般向けには適当でなく、釣り船を使った底物のタイ釣りなどがよい。釣り道具は釣り船で出かける場合は貸してくれるが、自分で用意する場合は船具店で求めればよい。

17-3 語学学習

(1) 語学学習施設

セントルシアの人々は、会話はパトワ語と英語の2つを使い分けており、学校での授業は英語である。しかし、低学年児童では英語力に差があり、個人教授を受けている子供も多い。学校以外に語学学習のための公立の施設はなく、個人レベルで英語、フランス語、スペイン語を教える人も少ない。

(2) 家庭教師

家庭教師には欧米出身者または現地教師の内職者がいる。ほとんどが自分の家に生徒を集めて週2～3回の指導を行っているが、頼めば特別に出張してくれる先生もいる。授業料は時間給50ECドルが一般的で、出張してもらう場合はガソリン代として10ECドルが追加となる。家庭教師を見つけるのは、口コミがほとんど。

18. 観光



18-1 地方旅行の留意点

観光が主要産業にしている国なので、外国人の国内旅行については規制や制限などは一切ない。ただ、旅行中にクレジットカードを使うのであれば、パスポートまたは身分証明書は携行したほうがよい。

外国人を狙った犯罪は多くはないが稀に地方の辺鄙な観光地での強盗事件や、市内での引ったくりなどが発生している。スリ、置き引きに注意し、不必要な貴重品や現金は持ち歩かないなど常識の範囲で注意すること。

18-2 主要観光地・保養地

温暖で自然に恵まれており、また大西洋とカリブ海に囲まれている立地条件が欧米人観光客の人気を集める要因になっている。島は小さいが、カリブ海側一帯は海が静かでリゾート地として最高の条件を備えている。南部一帯はサンゴ礁巡り、スフレ地区は海岸線に接した世界自然遺産のピトン双子山の景観、そしてその山すそ

の温泉の吹き出る湯元などが名所である。

観光としては、スキューバダイビングでのサンゴ礁巡り、カリブ海沿いの海の旅と温泉地巡り、熱帯雨林散策コースツアー、熱帯雨林ゴンドラツアー、ホエールウォッチング、島内一周が主なコースである。そのほか、長期滞在者は宿泊を経済的なアパートとし、のんびりと避暑を楽しむことになる。各観光案内や見どころについては、どこのホテルでも手軽に情報を入手でき、スペシャリストも配置しているので聞くとうい。また、Island Visions Ltd.(35 Jeremie St.Box 949 電話 : 453-0472)が発行している観光ガイド『Visions』を参考にするとよい。


保養地として発展している地域は、カストリーズから近いロドニーベイやマリゴ・ベイ、南部ではカリブ海に面するスフレおよびビューフォート方面となるが、いずれもリゾートホテルや短期賃貸アパートを手軽に利用できる。

セントルシアにはこれといった特産品は少なく、土産品として取り上げるとすれば、コーヒーや香辛料、陶器や木彫りなどのハンドクラフト、海草石鹸程度で、宝石、貴金属などはすべて輸入品である。しかし、これらの免税価格はアメリカなどよりやや割安といわれている。

18-3 旅行代理店

市内には多くの旅行代理店があり、航空券・ホテル・クルーズなどの手配を行なっている。支払いは現地通貨、米ドル、あるいはトラベラーズチェックなどでも可能である。

代理店としては次の2社が推薦できる(詳細はイエローページを参照)。ただし、日本語は通じない。

-  Yellow Page
- ・Carib Travel Agency
 - ・Tours 'N' Travel


19. 私財の輸送、引き取り、購入



19-1 家財道具

(1) 輸送業者

市内には多数の輸送会社があるが、代表的なものは次のとおりである(詳細はイエローページを参照)。

-  Yellow Page
- ・Carib Cargo Ltd.
 - ・CMA CGM St Lucia Ltd.
 - ・Branford Shipping & Brokerage Co.,Ltd.

(2) 輸入手続き

船便貨物の場合は船の入港日程に大きなずれが生じやすく、個人単位でコンテナ船入港からインボイスなど必要書類までを準備するのは大変な作業である。よって代行会社に依頼することが望ましい。その際、貨物発送時のインボイスは必ず手元に準備しておくこと。

航空貨物の場合は、Vigie、Hewanorra、どちらの空港に到着しても行先がカスタリーズとなっていればVigie 空港の保税倉庫に収納されるので、個人でも荷物の到着など問い合わせが容易である。また荷物引き出し手続きも簡単に済むので代行会社に依頼するまでもない。ただし、荷物到着後、日数経過にともなって荷物保管料を徴収されるので注意すること。ちなみにアメリカン航空は2日、Liat Airは4日の猶予があり、以後、1kg / 10.4ECドル × 日数の支払いが必要となる。

(3) 輸入貨物の受け取り港

航空貨物の場合は上記(2)を参照。

19-2 自動車

(1) 一般状況

車社会はピークに達しているが、道路交通、駐車設備などが立ち遅れている。他方、購買力は高く、今後、交通渋滞の深刻化、廃車公害が心配される。

(2) 輸入手続き

一般輸入品と同じくFOB 価格(運賃、保険を含まない船積み前の価格)など船出港からの輸出証明書が揃っていれば手続きはスムーズである。輸入税は排気量により1800cc以下で60.5%、~2000cc90%、~3000cc115%、3000cc以上125%。更に環境税として4000ECドルがかかる。そのほか通関手数料(ハンドリングチャージを含む)などで約2000ECドル程度がかかる。なお、中古車は輸入時点で製造後5年以内であることが条件となる。

(3) 現地での購入

市場のシェアは日本車が圧倒的に多く、韓国車、その他(欧米車、中国車)となっている。近年は価格の安い韓国車・中国車がシェアを伸ばしている。

日本車ではトヨタが多いが、他のメーカーも人気は高い。ほとんどは中古車である。日本の中古車の価格は輸送費等が嵩むため、日本国内の価格に30~40万円程度加えた程度となる。

中古車専門店も多数開店し、以前にも増して購入しやすくなっている。価格は比較的高い水準で取り引きされており、車種によっては新車に近い値段も少なくない。しかし、事故車が多いので、できれば車に詳しい人に下見してもらうことを勧める。

(4) 自動車登録

契約が成立すれば、販売店側で必要な手続きはすべて整えてくれる。普通車や小型トラックの場合、登録料として約500ECドルかかる。

(5) 免許証取得

セントルシアはジュネーブ条約に加盟していないので、国際免許証があっても運転できない。しかし、現地の免許に切り替える場合や、ビジターの免許を申請する際には国際免許があったほうが便利である。現地の免許に切り替える場合、運輸・通信省の所定の申請書に記入し、手数料200ECドルを支払えば取得できる。

免許がない人や運転が未熟な人は、専門の自動車教習(専用の練習場はなく、

教習車で公道を走行して練習する)を受け、陸運局の検査官立ち会いのもとで路上テストを行うことができる。実技に合格すれば次は簡単な道路標識の質問テストとなり、合格と認定されれば数日後免許証が発給される。

(6) 保険、税金

車両登録前に政府指定の修理工場 / ガレージに車を持っていき、そこで車検を受けて車体価格の見積もりを出してもらう。その見積もりから車両保険額が決まる。車検証・保険契約証を添えて陸運局で車両登録(手数料150ECドル)を行い、発給された登録ステッカーをフロントガラスの見える位置に貼っておく。

カストリーズ市内にある主な保険会社は、次のとおりである。



- ・ JE Bergasse & Co.,Ltd.
- ・ Genetral Insurance Company (Minvielle & Chastanet Ltd.)
- ・ Agostini Insurance Brokers (St. Lucia) Ltd.

保険料は車両価格によって差があるが、普通車(新車)の場合、最低限の強制保険の範囲で2000～3000ECドル程度。これに盗難や自損・災害保険等を加えると4000～6000ECドル程度となる。交通事故が多く、車体価格が高いため保険料は日本のそれよりかなり割高となる。

税金は車両価格に含まれているので、別途支払う必要はない。

20. 地方都市



<ビューフォート>

セントルシア第2の町で、島の最南部に位置している。首都カストリーズから車で約1時間。島(国)自体が琵琶湖ほどの面積のため、気候などは地方都市どこへ行っても変わらない。

大きなスーパーがあるのは、首都とビューフォート程度である。アンス・ラ・レイ、カナリーズ、スフレ、ショゼール、ラボリー、ミックド、デナリーなど小地方都市には、小さな店しかないので、必要なものは、首都およびビューフォートで入手する必要がある。

Part 3 イエローページ

*特に記載のない限り、調整員 事務所のあるカストリーズの情報を中心にしています。

1. セントルシア支所 (JICA/JOCV St Lucia Office)

所在地	23 Brazil St., 2nd Floor of Kaycees Building, Castries, St. Lucia (W.I.) P.O. Box 1042, Castries, St. Lucia (W.I.)
TEL/FAX	TEL: +1-758-453-6032 ~ 3 FAX: +1-758-453-6036
URL/E-mail	http://www.iica.go.jp/stlucia/ sc_oso_rep@iica.go.jp

2. 日本大使館

所在地	5 Hayes, Street, St. Clair, Port of Spain, Trinidad and Tobago, W.I. (在トリニダード・トバゴ日本大使館: セントルシア管轄)
TEL/FAX	TEL: +1-868(トリニダード・トバゴ国番号)-628-5991

3. 緊急連絡先電話番号

在トリニダード・トバゴ日本大使館	TEL: +1-868(トリニダード・トバゴ国番号)-628-5991
警察	TEL: 999
消防、救急車	TEL: 911

4. ホテル

<ロドニーベイ地区>

■Bav Gardens Hotel	P.O.Box 1892 Castries TEL: 452-8060 FAX: 452-8059 URL: http://www.bavgardenshotel.com E-mail: bavgardens@candw.lc 130 ~ 150 米ドル (朝食、サービス料、税込み)
■Bav Gardens Inn	Rodney Bay Gros Islet TEL: 452-8200 FAX: 452-8002 E-mail: bavgardensinn@candw.lc
■Coco Palm Hotel	Rodney Bay Villedge, Gros Islet TEL: 456-2800 FAX: 458-1074 E-mail: reservations@coco-resorts.com 90 ~ 120 米ドル (朝食、サービス料、税込み)

<カストリーズ地区>

■Villa Apartment	P.O.Box 129 Castries TEL: 452-2691 FAX: 452-5416 1泊75米ドル～、1カ月など長期貸出しでは2500ECドル～。
■Auberge Seraphin	P.O.Box 390 Castries TEL: 453-2073 FAX: 451-7001 E-mail: aubergeseraphin@candw.lc 110 ~ 152 米ドル
■Bel Jou Hotel	P.O.Box 296, La Pansee TEL: 456-1822 FAX: 456-1808 120 ~ 150 米ドル

<ビューフォート地区>

■Kimatrai Hotel	New Dock Rd. Box 238, Vieux Fort TEL: 454-6328 FAX: 454-3038
■Fort Ville Inn	Vieux Fort TEL: 454-8631 (Fix), 484-1217(Cell. Ms. Christine Liburd) E-mail: cdliburd@hotmail.com 70 ~ 100 米ドル

5. 不動産会社

■ Belle Vue Properties Ltd.

Gate Park Cap Estate Box 45, Castries

TEL: 450-8909 Email: info.Bellvuepropatiesstlucia.com

■ Mrs. Welcome St. Rose

TEL: 452-8736/ 484-3360

■ Julian R. Hunte Real Estate Ltd.

Castries

TEL: 453-1150

6. クリーニング店

■ Deluxe Dry-cleaning

Gros Islet, Gablewoods Mall

TEL: 450-9681 (Gros Islet)/451-7435 (Gablewoods Mall) FAX: 450-0111

7. 美容院

■ Mag's Unisex Hair Care Shoppecasa

Vigie Castries

TEL: 452-4096

■ Mood & Style Hair Dressing Salon

8 Mary Ann St.

TEL: 452-2394

8. レストラン [ロドニーベイ地区]

< 中国料理 >

■ Memories of Hongkong (香港)

ロイヤルセントルシアホテル前

TEL: 452-8218

■ Jade Terrace

American Drywall Building 2F, ジョンコンプトン・ハイウェイ沿い

TEL: 451-8952

< ピザ >

■ Key Largo

ロドニーベイ・マリーナ手前ハイウェイ沿い

TEL: 450-0190

■ Domino Pizza

ロドニーベイモール裏

TEL: 458-0002

< 肉料理 >

■ Big Chef Stake House

ロドニーベイモール裏

TEL: 450-0190

■ Charthouse

ロドニーベイモール裏

TEL: 452-8115

■ Fire Grill & Lounge

ロドニーベイモール裏

TEL: 451-4745

< インド料理 >

■ Razmataz Restaurant

ロイヤルセントルシアホテル前

TEL: 452-9800

■ Spice of India

Bay Walk Mall 内

TEL: 458-4243

< 海産物料理 >

■ Spinnakers

Bay Garden Beach Resort Hotel 裏

 TEL: 452-8491

<タイ料理>

■Ku de Ta

 ロドニーベイモール裏

 TEL: 458-4968

9.食品、生活用品

<スーパーマーケット>

■Super J Supermarket

 Castries, Waterfront, Rodney Bay, Gableeoods Mall, Vieux Fort

 TEL: 451-7357 (Castries)、451-7111 (Waterfront)、458-0100 (Rodney Bay)、451-7357 (Gableeoods Mall)、454-9998 (Vieux Fort)

 営業時間は店によって異なる。だいたい平日 8:00 ~ 20:00 (土曜は ~ 22:00、日曜は ~ 16:00)

■Food Market

 Rodney Bay

 TEL: 455-3663

 営業時間: 平日 7:00 ~ 20:00 (土曜は ~ midnight、日曜は ~ 18:00)

■Glace

 Castries, Bella Rosa Rodney Bay, Rodney Bay Marina

 TEL: 452-8814 (Castries)、458-4595 (Bella Rosa Rodney Bay)、450-0331 (Rodney Bay Marina)

 営業時間は店によって異なる。だいたい平日 6:30 ~ 20:30 (日曜は 8:00 ~ 12:00)

<家電>

■Courts Ltd.

 Castries

 TEL: 452-7320 FAX: 452-1663

<食器、家具、工具>

■Home Depot

 Castries

 TEL: 458-8320 FAX: 458-8319

 E-mail: mchomedepot@candw.lc

■S & S

 Castries

 TEL: 452-2802

■Mega J Supermarket

 Choc Estate、映画館近く

 TEL: 452-6342

<文房具>

■M & C

 Castries

 TEL: 458-8131 FAX: 458-8319

■Office Shop

 Castries

 TEL: 453-7772

10.銀行 Bank

■First Caribbean International Ltd. (FCIB)

 Castries TEL: 456-1000 FAX: 452-6860

 8:00 ~ 11:00 (月一金、金は 17:00 まで)

■Royal Bank of Canada (RCB)

 Castries Tek: 456-9200 FAX: 456-9290

 8:00 ~ 14:00 (月一金、金は 17:00 まで)

11.レンタカー会社 Rent Car

■AVIS Rent A Car

 Box 1010, Castries

 TEL: 452-2700 FAX: 453-1536

■Budget Rent A Car

 Marisule, Castries

 TEL: 452-0233 FAX: 452-9362

 ■Cool Bleeze Jeep Rental

 Castries

 TEL: 458-2031 (カストリーズ空港)/458-0824 (ロドニーベイ)

 12.自動車修理工場

 ■Alfred Victor's Garage

 Union Box 2279, Rodney Bay Gros-Islet

 TEL: 450-2397

 ■Mauricette's Auto Repairs

 P.O. Box 1759, Mongiraud, Gros Islet

 TEL: 450-2003 FAX: 458-4577

 13.インターネット/ケーブルテレビ・プロバイダー

 ■Cable & Wireless

 P.O.Box111 Castries

 TEL: 453-9000 FAX: 453-9744

 ■Karib Cable

 William Peter Blvd, Castries

 TEL: 572-5151 FAX: 572-5150

 14.国際宅配サービス

 ■DHL

 Castries

 TEL: 453-1538

 8:00 ~ 16:30

 ■FedEx

 Castries

 TEL: 452-1320

 ■UPS

 Castries

 TEL: 456-0758

 15.教育機関

 < 保育園・幼稚園 >

 ■Montessori Pre School

 La Toc

 TEL: 452-7468

 対象年齢: 2 ~ 6 歳

 使用言語: 英語

 授業料その他: 1 学期 975EC ドル

 ■Aunty Punky's Montessori Pre School

 La Clery

 TEL: 453-1510

 対象年齢: 3 ~ 5 歳

 使用言語: 英語

 授業料その他: 1 カ月 250EC ドル

 ■Saint Joseph Convent Pre School

 Castries

 TEL: 452-2322

 対象年齢: 3 ~ 5 歳

 使用言語: 英語

 授業料その他: 1 学期 250EC ドル

 ■Tapion Pre School

 Tapion

 TEL: 452-2902

 対象年齢: 3 ~ 5 歳

 使用言語: 英語

 授業料その他: 1 学期 1500EC ドル

 ■Wee Wisdom Montessori Pre School

 Pavee Rd.

 TEL: 452-6674

 対象年齢: 3 ~ 5 歳

使用言語: フランス語
 授業料その他: 660 ~ 750EC ドル

16. 図書館

■Library

所在地: Castries
 利用時間: 8:30 ~ 16:30

17. 警備会社

■Alternative Security Service Ltd.

TEL: 450-9171/461-1883 FAX: 450-9940

■G4S Security Service Ltd.

TEL: 450-7233 FAX: 450-1700

18. 日本の新聞、出版物の購読

■海外新聞普及(株)(OCS)輸出購読サービス

〒108-8701 東京都港区芝浦 2-9-13
 TEL: 03-5476-8131 FAX: 03-3453-8091
 URL: <http://www.ocs.co.jp/> E-Mail: subs@ocs.co.jp

19. 欧米紙 / 誌取次代理店

■Book Salon (AF Valmont & Co., Ltd.)

CNR Jeminie & Laborie St.
 TEL: 452-3817

■Sunshine Book Shop

13 Brazil St.
 TEL: 452-3222
 E-mail: sunbooks@candw.lc
 平均して発刊から1週間遅れて入手できる。料金は書物によるが、週刊誌で1カ月95ECドル(手数料込み)

20. スポーツ施設

< ゴルフ場 >

■St. Lucia Golf & Country Club

Cap Estate
 TEL: 450-8523 FAX: 450-8317
 URL: <http://www.stluciagolf.com> E-mail: golf@candw.lc

■Sandals Regency Hotel

La Toc
 TEL: 452-3081 FAX: 452-1012
 URL: <http://www.sandals.com>

< エアロビクス、ジムなど >

■Sportivo Health and Fitness

Rodney Hights P.O.Box 2134
 TEL: 452-8899, 485-8899 (Mobile)
<http://sportivonow.com/>

■Club St. Lucia

P.O.Box 915 Gros Islet
 TEL: 450-0551 FAX: 4504-6017
 E-mail: clubstlucia@splashresorts.com

■Le Sport

Cap Estate
 TEL: 457-7866 FAX: 450-0368
 URL: <http://www.thebodyholiday.com/Content/ContentCT.asp?P=92>
 E-mail: Cfarles@TheBodyHoliday.com

21. 旅行代理店

■Carib Travel Agency

20 Micoud St. Box 102, Castries
 TEL: 452-2151/3176 FAX: 451-8028
 E-mail: carib.travel@caribtravelltd.com
 月~金 8:00 ~ 16:30, 土 8:00 ~ 12:00

■Tour & Travel

MC Plaza Unit 8, Jeremie St., Castries

TEL: 451-1400

E-mail: toursntravel@candw.lc

22. 輸送会社

■Carib Cargo Ltd.

Massade Industrial Estate, Gros Islet

TEL: 450-8153 FAX: 450-8154 HP: www.sea-star.us/en

■CMA CGM St Lucia Ltd.

Castries

TEL: 451-7310

E-mail: sluc.genmbox@cma-cgm.com

■Branford Shipping & Brokerage Co.,Ltd.

John Compton Highway, Nortwest Building,. Castries

TEL: 452-1379/453-0009 FAX: 453-1331

URL: http://www.branfordshipping.stluciabest.com

23. 保険会社

■Bergasse JE & Co.,Ltd.

Vide Boutielle Box 102, Castries

TEL: 456-6500 FAX: 452-3346

■General Insurance Company (Minvielle & Chastanet Ltd.)

9-11 Bridge St. Castries

TEL: 452-8000 FAX: 452-2810

■Agostini Insurance Brokers (St. Lucia) Ltd.

Corner of Brazil & Bourbon Sts. P.O.Box102, Castries

TEL: 452-4733 FAX: 452-7496

URL: http://www.agostini.com

E-mail: agostini@candw.lc